

「エネルギーあふれる地域を創る」

2011年3月11日 東日本大震災を経験して

震災から丁度7年の月日が経ちます。もう7年も経つのか…と思いますが、これまでがむしろに走ってきた毎日が妙に自分を納得させてしまいます。

震災によって、個人としては祖母を亡くし、自宅・会社は全壊、約3年半、応急仮設住宅のお世話になりました。不幸中の幸いは、社員に犠牲者がいなかったこと、何より自身自身が運よく生き延びることが出来ました。また、皮肉な事に震災による復興特需が建設業を甦らせました。私の会社も例外ではなく、会社は全壊したものの、すぐに内陸部の取引先の支援を頂きながら業務を再開し、飛躍的に業績を伸ばすことが出来ました。

一方で、生活の安定や全壊した会社の再生など、やることは山積みで、日々目まぐるし

い変化の中で精一杯「生きる」を体験してきましたと思います。その中で、支援や協力を頂き関わった人々に対しては感謝の気持ちしかありませんでした。「いつか恩返しをしたい」。でも、まずは一日も早く復興する事が何よりの恩返しと思いい、地域の復興に係わる活動を続けてきました。

挫折・苦悩を乗り越えて

私の経営する金子ルーフ工業は、屋根・外壁・雨樋といった建物の外周部を施工する会社です。両親が経営していた会社が平成11年に倒産し、借金を返すため、平成14年、小さいながらも看板をあげる決断を致しました。

震災前の建設業というと、全国的な不景気により企業は設備投資を渋り、少ない工事は値段のたたき合いによって、苦しい経営を余儀なくされていきました。まして私たち下請けは、より厳しい状況にありました。会社を立て



株式会社金子ルーフ工業
(大船渡市)
代表取締役

金子 正勝

ち上げた数年後、売上の伸び悩んだ時期に、更なる成長のために信用の回復や仲間づくりが出来た場所を探して出逢った「青年会議所」が、人生の転機になりました。会員の多くが同世代の若手経営者で、お互いの考えや価値観をぶつけ合い、「志を立てる」、「世のため人のため」といった青臭い言葉が平気で飛び交う環境は、私にとって情熱を傾けるに相応しい場所でした。ここで出逢う先輩や仲間と憧れ、自分もそんな存在になりたいと思いい、常に自己成長を意識しながら企業経営に全力で取り組んできました。

地域を元気にしたい

昨年、ベトナムのホーチミンへ行く機会がありました。現地の平均月収は2万円程度と所得は低く、急激な社会インフラの整備に国民の意識が追いついていないという印象を持ちましたが、この国の強烈な「エネルギー」を

肌で感じ、この国はまだまだ成長するとも思わされました。そして、そんな感情を抱いて自分のまちに帰り思ったのは、異国の地で感じた「エネルギー」が感じられないという」と…。

現在大船渡に限らず、人口減少や若者の都市部への流出による担い手不足など、どこも問題は多いと思いますが、地域を元気にする源はやはり「若い力」であると思いますし、自分もその一人でありたいと思います。そこで私は、大船渡もベトナムで感じたエネルギーがある地域にしようと、「Active Renovation」と銘打った新たな経営計画を作成し、従来事業のエリア拡大、外部リフォーム事業の元請け転換、海外連携事業という3つの挑戦に取り組んでいます。特に外部リフォーム事業においては新しいサービス確立に向けて、基本的なサービスや製品は無料で提供し、さらに高度な機能や特別な機能については料金を課す「フリーミアムモデル」として事業拡大を目指しますし、ODA（政府開発援助）への参画などを目標に海でつながる諸外国での事業に取り組み、地域に活力をもたらす一役を担っていききたいと思っています。

危機感、隣り合わせの「可能性」

現在、被災した沿岸部では、早期の復興に向けたインフラの整備などにより俄かに活気があるように感じられます。しかし遅かれ早かれ必ず終息する特雷景気の後はどうなるのか？



新たにできたミニバスチームと「勉族」のメンバーたち

大船渡は他の被災地から比べると復興の進みが早いと感じますが、他地域から人を呼び込む工夫やアイデアを創造しなければ、早い段階で行き詰ってしまうと思います。また、広い岩手を結ぶ県道の整備は沿岸に住み暮らす私たちにとっては悲願であります。逆に内陸へのアクセスが良くなれば、地場の企業にとっては競争の激化が心配されます。

しかし、地域の特徴や強みを活かした取り組みによつては、大船渡は大きな可能性を秘めています。大船渡はさんまの水揚げ本州1位、気候風土も風光明媚で住みやすく、素晴らしい地域です。何より、世界中の港と港を結ぶ国際港湾があります。この港湾を有効活用して世界の国と直接つながることが出来れば、地域の未来は必ず拓けると思います。

「夢」を描ける地域 未来を担う地域の宝を育む

地域を元気にしていくのは若手の私たち自身ではありますが、これに続く更に新しい世代の育成が必要です。そのためには、主体的に行動できる好奇心と意欲にあふれた元気な子供を増やしたい。

気仙地域はスポーツの盛んな地域で各種競技において素晴らしい成果や選手を輩出しています。ですが、高校入学あたりから地元を離れ内陸部や県外へ進学している現状があります。素材はあるのに地域で活かさない例の一つだと思っています。

私は青年会議所の事業として、公園などのコートを使って行うストリートバスケット事業をこの10数年来、独特のプレースタイルで注目されている千葉県柏市の「勉族」に支援・協力を頂きながら続けており、昨年8月にはこの活動が実を結び、地元ミニバスの新チームを立ち上げるに至りました。ここでは子供達の「主体性」を第1に考え、「元気にハツラツ」をモットーに、地域を盛り上げるような元気な人間に成長してもらうように取り組んでいます。いつか私たちの思いが伝わり、オリンピック選手が生まれるといった奇跡を起こせるように、まずは自分自身が全力で「夢」を目指し挑戦し続け、地域の活力になればと思っています。